

第3次紀の川市長期総合計画 基本構想(案)について

紀の川市における長期総合計画のこれまでの流れ

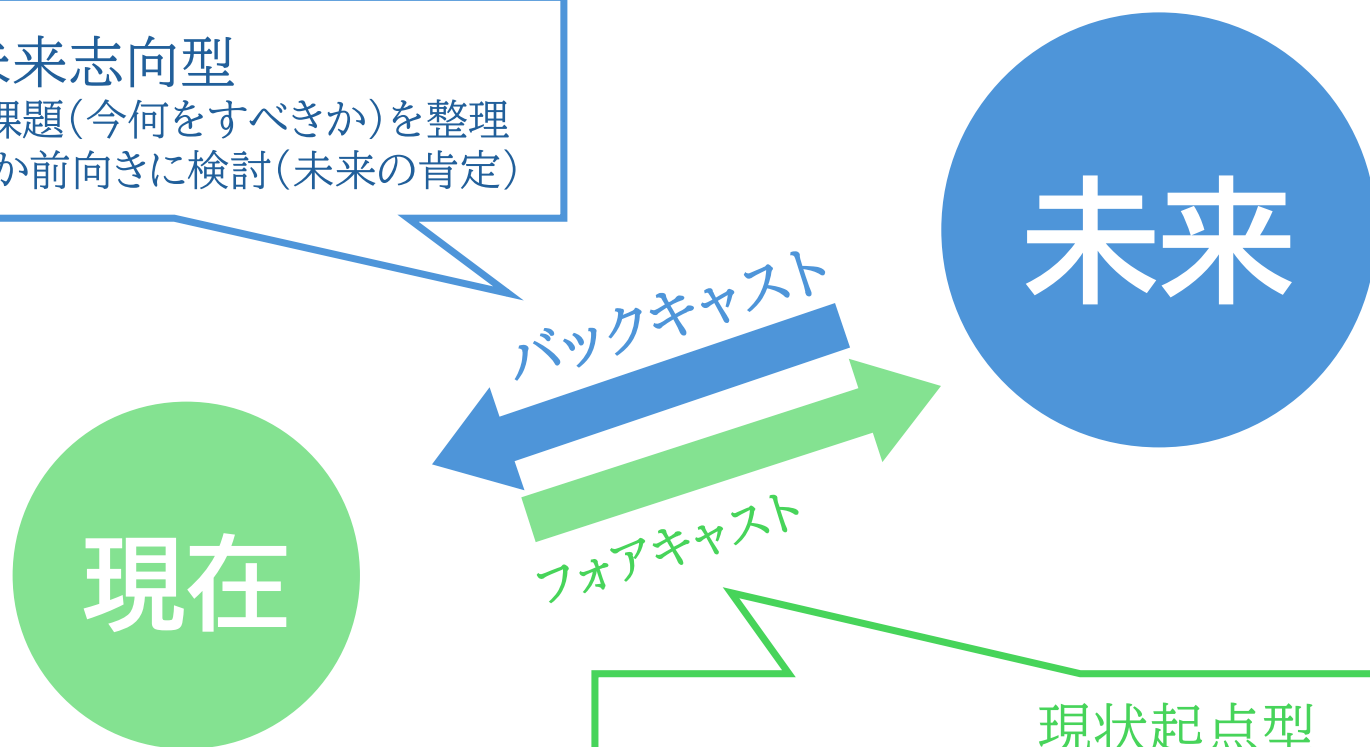
第1次総合計画では5町合併後の均衡ある発展と安全安心のまちづくり、第2次総合計画では人口減少・少子高齢化、頻発する自然災害等の社会情勢の変化に対応したまちづくりを進めてきました。

<p>第1次総合計画</p> <p>いきいきと 力をあわせたまちづくり 夢あふれる 紀の川市</p>	<p>平成20(2008)年度 から 平成29(2017)年度</p>	<p>合併後の新市建設計画を踏まえ、5町の均衡ある発展と安全・安心なまちづくり。豊かさゆとりを実感できるまちを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心 子育て・教育 産業振興 <p>平成23(2011)年まで策定は義務</p>
<p>第2次総合計画</p> <p>人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち</p>	<p>平成30(2018)年度 から 令和8(2026)年度</p>	<p>合併から10年が経過した社会情勢の変化に対応し、地方創生と安全安心の強化。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心 子育て・教育 産業・交流 都市基盤・生活環境 地域づくり・行政経営
<p>第3次総合計画</p>	<p>令和9(2027)年度 から 令和16(2034)年度</p>	<p>持続可能なまちづくりに向けての転換点となる計画として、市民と共創による未来志向型の考えで策定します。</p>	

未来志向型による基本構想の策定

未来志向型

- ・未来を起点として課題(今何をすべきか)を整理
- ・未来に何をすべきか前向きに検討(未来の肯定)



未来

現在

バックキャスト

フォアキャスト

現状起点型

- ・現在を起点にして課題(今後何をしていくべきか)を整理
- ・思い描いた”未来”を実現するために今後何をすべきかを検討

基本構想はバックキャスト、基本計画はフォアキャストの視点で策定を進める

法定義務でなくなった今、長期総合計画を策定する目的(整理)

	これまで つくる	第3次 つかう
構造	網羅型、文書量が多い	重点化(戦略型)、市民目線
伝え方	行政内部資料・行政用語	市民共有ビジョン・わかりやすい表現
市民の参画	意見聴取(参加)	対話(共創)
意識	人口減少対策(何をやるか)	選択と集中(どう持続させるか)
全体像	第1次: 合併後のまちづくりの基盤整備 第2次: 人口減少時代への対応	第3次: 持続可能な行政経営への転換

第3次紀の川市長期総合計画策定スケジュール(令和7年度)

	R7 7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8 1月	2月	3月
審議会			第1回	第2回			第3回	第4回	
本部会		第1回		第2回			第3回	第4回	第5回
		基本構想の検討							

1 市民意識調査 (市民意見聴取)

2 市民ワークショップ (市民意見聴取) (全4回)

3 こども未来会議 (中学生意見聴取)

4 ワーキンググループ 若手有志職員

基本構想 (案) 策定作業

パブリックコメント 基本構想 (案)

第3次紀の川市長期総合計画策定スケジュール(令和8年度)

	R8 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
審議会	第5回 (予定)	答申	第6回 (予定)	第7回 (予定)		第8回 (予定)		第9回 (予定)	答申
本部会	第6回 (予定)	第7回 (予定)		第8回 (予定)	第9回 (予定)	第10回 (予定)		第11回 (予定)	
	基本構想 の検討		基本計画検討						
	パブリックコメント 基本構想 意見反映		基本構想 議会上程	基本計画 (案) 策定作業		パブリックコメント 基本計画 (案)	パブリックコメント 基本計画 意見反映		基本計画 議会報告
				関係者 ヒアリング					

※基本計画は進捗状況により9年3月議会での報告となる場合があります

①市民意識調査(市民アンケート)

広く市民の皆さまのご意見・ご意向をお伺いし、新たな計画に反映させていただくことを目的に実施しました。

調査期間	令和7年8月28日(木)～令和7年9月17日(水)
調査対象	紀の川市在住の18歳以上75歳未満2,500人 (令和7年8月1日現在基準)
調査方法	郵送配布・回収及びインターネット回答
有効回答者数	郵送回答657人 インターネット回答221人 (総回答数878)
有効回答率	35.1%

第3次紀の川市長期総合計画策定のための市民アンケート

-ご協力のお願い-

市民の皆さまには、日ごろから市政の運営にご理解とご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。
紀の川市では、平成30年度に市民の皆さまのご協力をいただきながら策定した「第2次紀の川市長期総合計画」に基づき行政運営に取り組み、本計画の終了年度にあたる令和8年度には新たな次期総合計画(第3次紀の川市長期総合計画)の策定を予定しています。

この度、広く市民の皆さまのご意見・ご意向をお伺いし、新たな計画に反映させていただくことを目的に、アンケートを実施させていただくこととしました。

今回のアンケートは、紀の川市在住の18歳以上75歳未満の方から無作為に選んだ2,500人の方に送りしており、収集させていただいたデータは、総合計画の策定をはじめ、今後のまちづくりのために活用させていただきます。

ご多忙のところ大変恐れ入りますが、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

令和7年8月

紀の川市長 岸本 健

【アンケートご記入にあたってのお願い】

- この調査は、令和7年8月1日を基準日として、記入してください。
- 宛名のご本人様にご回答いただくようお願いいたします。ただし、ご本人様による記入が難しい場合は、できる限りご本人様の意思を反映してご家族の方などが代わってご回答願います。
- 同一世帯内で複数の方に配布されている場合があります。宛名の方がそれぞれご回答いただけましたらご協力をお願いいたします。
- 回答が「その他」の場合は、カッコ内・欄内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- ご記入いただきましたアンケートは、**9月17日(水)まで**に、同封しております返信用封筒(切手を貼る必要はありません。)にて返送してください。

本調査はインターネットでも回答いただくことが可能です。

- ウェブブラウザのURL欄に、下記URLを入力してください。
URL:<https://logofom.jp/form/5a89/1176129>
- スマートフォンで回答される場合は、右記のQRコードを読み取り、アクセスしてください。



※ 結果については、統計的に集計し、個人の考えが公表されることはありません。

<本調査に対するお問い合わせ先>

紀の川市役所 企画部 企画経営課

電話:0736-77-2511

電子メール:k030600-001@city.kinokawa.lg.jp

①市民意識調査(市民アンケート) 紀の川市の現在の印象と未来のイメージ

現在

全体結果(報告書p.10)

- 現在の紀の川市について、水道水の安定供給、緑豊かな環境や衛生的な生活環境などのイメージを持っている方が多い。

年齢(報告書p.13)

- 若年層:子どもが健やかに過ごせる
- 働く世代:子育て支援の充実
- 中高年層以上:生涯健康的な生活

お住まい(報告書p.15)

- 打田:生涯健康的な生活
- 粉河:地域の支え合い
- 那賀・桃山:交通事故や犯罪が起きにくい
- 貴志川:子どもが健やかに過ごせる

居住年数(報告書p.16)

- 短い:地域の支え合い
- 長い:生涯健康的な生活

未来

全体結果(報告書p.22)

- 未来の紀の川市について、医療体制・医療保険制度の充実、高齢者や子どもたちが安心して暮らせるまちになってほしいと考えている方が多い。

年齢(報告書p.24)

- 若年層:交通事故や犯罪が起きにくい
- 働く世代:子育て支援の充実
- 中高年層以上:公共交通ネットワークの構築

お住まい(報告書p.26)

- 各地域共通:子どもが健やかに過ごせる

居住年数(報告書p.27)

- 短い:子育て支援の充実
- 長い:公共交通ネットワークの構築

結果

- 現在の紀の川市は、自然豊かで生活環境が整っているというまちの印象を持っている。
- 未来の紀の川市は、歳を重ねても安心して暮らせるまちを望んでいる。

- 若年層は子どもが健やかに過ごせるまちの印象を持っており、安全・安心なまちを望んでいる。
- 働く世代は子育て支援が充実したまちの印象を持つとともに未来も子育て支援の充実を望んでいる。
- 中高年層以上は歳をとっても健康に暮らせるまちの印象を持っており、公共交通の利便性の向上を望んでいる。

- 各地域で現在の紀の川市の印象は異なっている。
- 未来の紀の川市は、すべての地域で共通して、子どもが健やかに過ごせるまちを望んでいる。

- 居住年数が短い方は地域の支え合いができるまちの印象を持っており、子育て支援が充実したまちを望んでいる。
- 居住年数が長い方は歳をとっても健康に暮らせるまちのイメージを持っており、公共交通の利便性の向上を望んでいる。

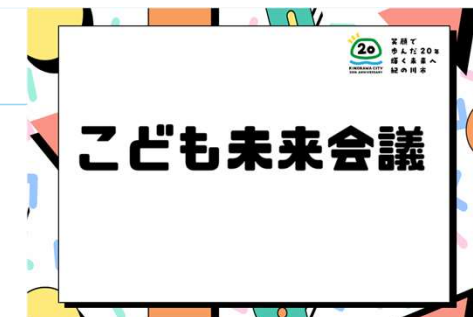
②未来共創ワークショップ(市民ワークショップ)

全4回開催し、延べ79人が参加がありました。市民の想いを市政運営につなげるため、市民と職員との対話により、市の強みや課題を整理し、目指すべき未来を市の将来像として整理しました。



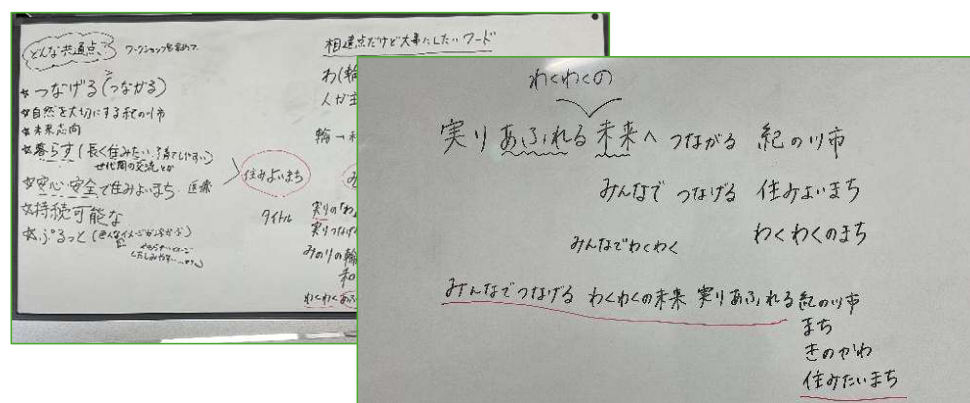
③こども未来会議(中学生ワークショップ)

8年後に20歳となる生徒たちの視点を市政運営につなげることを目的とし、全中学生へのアンケートと全2回のワークショップを実施し、生徒たちの望む未来を市の将来像への想いとして整理しました。



④NEXT紀の川ミーティング(若手有志職員WG)

今後、市の中心を担う若手有志職員35人(申込職員29人+事務局若手職員6人)が、市民のみなさまの意見を共有し、市民の想いをつなぐ将来像づくりを模索しました。



基本構想(案)

1. 市の将来像

「みんなでつなげる わくわくの未来 実りあふれる 住みたいまち」

【将来像に込めた思い】

人口減少や少子高齢化といった「現状維持が限界を迎えている局面」をただ受け入れるのではなく、本市は「愛すべきこのまちを責任を持って次代につなぐ」という強い意志を持っています。

市の豊かな自然、全国に誇る農産物、そして先人が築いた歴史や文化という「実り」を大切に、それらを新たな知恵と技術で次世代へと「つなげる」ことで、誰もが未来に希望を持ち、挑戦できる「わくわくするまち」を目指します。

市民一人ひとりが主役となり、地域の絆を感じながら、「ずっとここで暮らしたい」と思える、心地よいまちを共に創り上げていきます。

2. まちづくりの目標(政策目標)

1 ひとづくりと地域づくり

「ひととまちが煌めき、実りあふれるまちへ」

2 しごととにぎわい

「はたらく場を生み、こころおどるまちへ」

3 くらしと環境

「みんなの力で安全で安心して暮らせる、持続可能なまちへ」

4 つながり

「人と人がつながり、やさしさと笑顔があふれるまちへ」

5 しくみと共創

「住民と行政が、ともに創るまちへ」